令和６年度　川岸保育園　保育士の自己評価について

はじめに

平成２０年３月に告示された保育所保育指針において保育士等及び保育所に自己評価並びにその公表が努力義務として位置付けられました。本園では、保育士の自己評価を厚生労働省のガイドラインに基づいて自己評価を行っております。

保育士が自己評価することで

☆保育士が自らの保育を自己点検・評価する（見直す）ことによって、保育内容の質の向上に努めることができる。

☆保育観や保育に対する考え方・方針を共有化することができる。

☆多様なニーズに対応したきめ細やかな保育サービスの提供の在り方等について検討課題を得ることができる。

☆保育園の保育内容を開示することによって、社会に保育所保育及び保育所の存在理由を理解してもらうことができる。

以上の効果が期待されます。

１．実施期間

令和６年４月１日～令和７年３月

２．評価基準

イ。　よく出来ている

ロ。　ほぼ出来ている

ハ。　努力が必要

３．評価内容と結果

（実施した保育士１５名）

評価項目及び評価内容	イ（%）	ロ（%）	ハ（%）	評価（改善策）
１、保育の理念・保育観 ・あなたは、すべての子どもについて、ひとりひとりの存在とその人権を尊重していますか。 ・あなたは、ひとりひとりの子どもに目が行き届いていたかを振り返り、これからの保育の課題を見つけることができますか。　他	４６	４１	１３	・常に理念を意識しながら取り組んでいた。今後も人権や人格を尊重した関わりの重要性や保育観を、職員間で共有し、同じ目標に向かって進んでいきたい。

２、保育の内容 **（１）保育計画・指導計画** ・子ども、ひとりひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、期・月・週案などを作成していますか。 他	２９	５５	１６	・全体的な保育計画をもとに進めた。子どもの姿、発達や興味の実態、保護者の思い等に合わせ、方針を計画し、実践、評価、反省を行った。
（２）3 歳未満児保育（１・２歳児保育） ・大勢の子どもを保育するときでも、あなたを独占したがるその子の気持ちも十分に満たすなど、子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫ができていますか。 他	３８	５５	７	・それぞれの子どもの思いや甘えたい気持ちを受け止め、スキンシップや優しい言葉がけがなされた。子どもの性格や発達には違いがあるため、一人ひとりの個性や成長を大切にした保育を心がけた。
（３）3 歳以上児保育 ア、基礎的事項 ・子どもが緊張したり、不安を感じたときにはあたたかく受けとめ、母親のようにやさしく接するなど、家庭的な雰囲気づくりに心がけていますか。 ◎健康　◎人間関係　◎環境　◎言葉　◎表現	４４	５６	０	・子どもたちが楽しく過ごすことが出来るよう、工夫した。 ・今後も子どもが自ら自分を肯定できたり、自主性を育む保育を目指していきたい。 ・子どもたちの気持ちに寄り添いながら保育を行った。また、お互いを認め合うような経験が得られるように進めていった。
（４）特別な配慮や支援を必要とする子ども（障がい児）の保育 ・あなたは、障がい児により適切な保育をするために、様々な専門機関等と連携をしていますか。 他	３３	５５	１２	・子供を中心に考え、安定して居心地よく過ごせるよう考えた。 ・個々の発達の違いから、関わり方の難しさを感じた。専門機関とは、今後も連携を取りながら、よりよい支援の在り方を見つけてていきたい。支援担当職員だけでなく、全職員で共通理解を深めていきたい。

（５）行事 ・「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識していますか。　他	３４	６４	２	・今までの行事の内容を見直し改善し、新しいやり方を取り入れていった。今後もアンケート調査の結果を参考にしたり、状況の変化により視点を変えてバージョンアップしていきたい。 ・子どもたちが、喜んで楽しく参加出来る内容であった。行事を通して、大きな成長が感じられた。
（６）延長保育 ・次々にお迎えが来る中で、「ママ来ないね」のつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるよう適切な対応をしていますか。　他	４０	５５	５	・家庭の状況、就労状況、天候、交通事情により延長保育を利用することが増えてきている。 ・寂しくならないよう、子どもたちが安心した気持ちで過ごせるよう、配慮や環境作りができていた。
３、保健活動・安全管理 ・その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めていますか。　他	４７	４７	６	・検温をこまめに行い、機嫌や体調の変化に気を付けた。感染症が流行した場合はルクミーやお知らせボード等で保護者に周知していった。 ・感染症対策として、消毒を徹底した。園内外の安全点検をし、安全管理に努めた。
４、保護者・地域社会・関係機関との連携 ・園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜び合うことができますか。　他	４８	５２	０	・保護者の事を出来るだけ理解するよう努め、信頼関係を築くことが重要である。 ・保護者とは送迎の際に時間を使って、丁寧に対応するように心がけた。今後も個別懇談を行い、共通理解を図っていきたい。

				・地域社会とは積極的に交流を取り入れ、つながりを大切にしたい。
５、地域の子育て支援 ・あなたは、保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えていますか。　他	２７	５８	１５	・公益的な取り組みでは、「わくわくランド」を実施したが、参加者が少なかった。今後は地域に貢献できる活動をもっと広めていきたい。
６、保育園の勤務・役割分担 ・園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。　他	３８	５４	８	・自分の職務や役割を理解し、責任を持って行えるよう声を掛け合っていった。時には臨機応変な対応も求められるので、柔軟に展開できるようにしていきたい。 ・勤務の当番を交換し合ったり、他のクラスを手伝う等、どのような連携が必要かを考え、専門性を生かした体制が取れていた。
７、保育士としての資質向上 **（研修・研究活動）** ・あなたは、保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めていますか。　他	２５	５３	２２	・園内研修では講師を呼んで救命救急やメンタルヘルスについて学んだ。 ・今年は幼保小研修の参加が多かった。スムーズに小学校生活を送るための接続を行い、架け橋プロクラムの作成にむけては積極的に取り組んでいきたい。

令和６年度は、園の行事を工夫し、新しい内容を取り入れたり、コロナ禍以前のような、保存会の皆さまによるカッパ太鼓演奏の復活等がありました。地域の行事やイベントへの参加を通して、保育園の特色をアピールできたことは、とても嬉しいことでした。保護者会の皆様のご協力にも感謝いたします。様々なアンケートでいただいた意見や要望などは、今後の参考にし、保護者や地域に向けてさらに発信していけるよう検討していきたいと思います。保育については全職員が同じ目標や保育観を持ち、協力しあい、たくさん研修を積み、保育の資質向上に向けて努力してまいります。